

No.654 (改題614号)
2024年
10月23日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

知事選

新社会党 支援を決定

兵庫県議会で全会一致で不信任決議が可決された前知事の失職に伴い、10月31日告示、11月17日投票日に行われる兵庫県知事選挙をめぐる、前尼崎市長の稲村和美さん(51歳)が8日、県庁で記者会見を行い、無所属で立候補することを正式に表明した。政党の推薦は求めない方針。

具体化していく。知事選には目下、稲村和美さんを含め、7人が出馬を表明しているが、斎藤前県政に代る県民本位の県政への転換には稲村和美さんが最適任だ。新社会党兵庫本部は、勝手連的に稲村和美さんを支援することを県本部執行委員会で決めた。

稲村和美さん立候補
県民本位の県政を決意



稲村和美さん

稲村和美さんの立候補の意向はすでにマスコミでは報道されていたが、8日の会見では立候補の決意に至る具体的ななきっかけなども述べた。この間、知り合いの県議や知人、県内の市町の首長らから「兵庫県を何とかしてほしい」と出馬の要請を受けて、「県政の混乱と停滞をこのままにはしておけない。これまでの県議や市長の経験を生かして求められる役割は担える」と、前知事が失職と出直し選挙への出馬を表明した9月26日に自分も決断したと語った。すでに稲村和美さんを

1972年生まれ。奈良県立奈良高校を卒業して1992年、神戸大学法学部に入学。在学中に阪神・淡路大震災が発生し、ボランティア活動に熱心に携わる。大学卒業後は証券会社勤務を経て、2003年に兵庫県議に初当選。県議を2期務めた後、2010年12月、尼崎市長に当選。3期12年務めた。

全国から400人余が結集
ユニオン全国ネットが大阪で交流集会

「ユニオンつながり、ひろがる仲間の知恵と輪と力」をスローガンに、第36回ユニオン・ユニオン全国交流会inおおさかが10月5、6日の両日、大阪市のエルおおさかで開かれた。ユニオン・ユニオン全国ネットワークの主催で、400人を超える仲間が全国から結集、兵庫からも70人余が参加した。

1日目の全体会では、全国ネットワークの第35回総会、特別報告、映画上映などがあり、集会后は別会場でレセプションも開かれた。集會冒頭、現地実行委員会の木村真実行委員長(北大阪ユニオン)が、「民主主義を確立するため、職場を変えることが社会全体を変えることに必要と確信している。実り多い交流集会に」と歓迎あいさつ。

韓国からのゲスト、韓国非正規職労働団体ネットワークからも活動報告があった。画面上映では、大阪で生まれ育ったフリーライターのリ・シネさんが差別を扇動するヘイトスピーチと闘っている姿を描いたドキュメンタリー映画『もっと真ん中で』が

ひょうご(156)
描き歩き
JR土山駅から西へ散策路「であいのみち」が中道跡まで1km余り続いている。40年前に廃線となった別府鉄道の線路跡が緑道に整備されていて、喜瀬川に架かる吊り橋型のメロディ橋「ふるさと橋」では音響板を叩くと唱歌「ふるさと」を奏でられる。また、この道には四季折々の花が植えられ、縁石には25mごとに100年さかのぼるマイルストーン(タイル)が張られ、大中道跡西端までの2千年の時間旅行が楽しめるようになっている。

この緑道に隣接して野添北公園があり、複合遊具を備えた「ちびっこ広場」、水遊びができる「はだかの池」、芝生を敷き詰めた「はだしの森」などがあり、

圓滿寺五重塔

(加古郡播磨町)

日本庭園には茶会や研修のできる「蓬生庵」が風情を醸し出す。そのすぐ近くで突然目に飛び込ん

居後に過ぐす寺として約30年前に奈良の法隆寺五重塔を模して建立したものらしい。この五重塔は納骨堂で、鉄筋造り、エレベーターがついていて最上階まで上がれる。そこからは播磨平野が一望でき、海を隔て淡路島も近い。(嶋谷)



特別報告では3つの闘争が紹介された。そのなかで、札幌地域労組のバタゴニア争議について、藤川瑞穂さんが「労契法改正で非正規の5年無期転換ルールが施行されたが、非正規スタッフに更新5年上限条項がつくられ、4年9か月での雇止めに対し、3万人署名や24時間ストで闘ったが、不当な雇止めが強行さ



全国から地域ユニオンのたたかいと活動を持ち寄り熱心に交流した第36回全国交流集会=10月5日、大阪市・エルおおさか

「核の共有」の持論を持つ首相も誕生している。(2面に掲載)だが、問題はこれからだ。このメッセージが、近いところでは核兵器禁止条約に背を向け続けてきた日本政府にどう届き、動かす力となっていくのか。

水脈

イスラエルのガザへの攻撃、ジェノサイドが始まって1年。これまでの死者は4万1千人を超え、しかも大半が子どもだ。一時、 Netanyahu 政権の閣僚は「核の使用も一つの選択肢」と公言した。ガザの停戦どころか、イスラエルはいまやレバノンにも攻撃を仕掛け、中東の戦火はさらに広がろうとしていて、やりきれない。小欄はこんな書き出しだったが、11日夕、驚きのニュースが飛び込んできた。歴史的、画期的な朗報だ。2024年のノーベル平和賞を日本被団協が受賞したのだ。ノーベル委員会の委員長に今年新しく就任した39歳のフリードネス氏が受賞理由をゆくりと、しっかりと読み上げる。その全文を後で読んでみると実に感動的な内容だ。被団協の活動の総体を評価するとともに、新しい世代への期待もある。核軍縮に逆行し核戦争の危機すらある現代への強いメッセージの意味もある。編集長の職権(?)で計画を変更し、全文を本誌でもぜひ紹介したいと思った(2面に掲載)だが、問題はこれからだ。このメッセージが、近いところでは核兵器禁止条約に背を向け続けてきた日本政府にどう届き、動かす力となっていくのか。「核の共有」の持論を持つ首相も誕生している。

被団協にノーベル平和賞

立川重則さん（県被団協理事長）が喜び語る

今年のノーベル平和賞は、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）が受賞した。ノルウェーのノーベル委員会が11日、発表した。

今日、アジアでは核軍備増強の動きが進み、ウクライナや中東では核使用の危機が高まるなか、被団協へのノーベル平和賞の授与は、こうした危機への警鐘の意味を強く持つものだ。

このニュースを受け、県被団協（県原爆被害者団体協議会）理事長で、神戸市原爆被害者の会会長の立川重則さんは11日夜、本紙の電話にこたえて、次のように語ってくれた。

「昨日から被団協の全国会議が東京であり、今

日も東京に残って国との交渉などがあって、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したというニュースは、帰りの新幹線の中で電話で初めて知った。驚き、また、ほんとうにうれしかった。今回の受賞で、これまで亡くなった多くの先輩方のたいへんな努力も少しは報われるのではないかと思う。かつて一度、被団協が平和賞受賞の気運があった時があったが、実現せず、あきらめていた。やっと長年の夢が叶った。いま、世界で核兵器使用の危機が高まるなか、今回の平和賞受賞が一つの刺激となって、改めて世界の

第10回東灘憲法カフェ マイナ保険証問題を考える

憲法を生かす会とろっこう医療生協が共催



「なくさないで！健康保険証」をテーマにした説明に熱心に聞き入る参加者たち＝9月28日、神戸市東灘区

日本政府もこの受賞を受け止め、核兵器禁止条約の批准に一步を進めてほしい。私たちもさらにならば。

左記はノーベル平和賞受賞理由の全文（朝日新聞）

憲法を生かす会・東灘とろっこう医療生活協同組合の共催による第10回東灘憲法カフェが9月28日、うはらハウス地域交

流室で開かれた。テーマは、「なくさないで！健康保険証 マイナ保険証の問題点」とは。喫緊の問題で関心が高かった。

たことから多くの参加があり、講師の山田誠一さん（元神戸市職員）からのマイナ保険証の問題点、今後の対応策の詳しい説明に熱心に耳を傾けた。

保険証廃止の問題点とマイナ保険証の危険性についてしっかり学ぶことができた。

続いて医療生協職員のKさんから現場で日々起こっている問題点を聞くことで理解がさらに深まった。Kさんは、この制度の複雑さや政府の現場への推進の押しつけとともに、デジタル体制の不備などが要因でトラブルが起こっているのに現場に責任を押しつけられていることに憤りを感じて話した。

両氏から繰り返し言われていたことは、①現行保険証は来年の有効期限まで使えること、②マイナ保険証（有効期限5年）を持っている人は、登録解除しないと資格確認できないこと、

③現行保険証を残してほしいと国民の大半も、医療・介護現場も切望していること、④みんなで声をあげ、政府の情報に惑わされないようにしよう

ということ、だった。カフェの参加者アンケート結果でも全員が現行保険証を残してほしいと切望していた。（新原三恵子）

改憲の動きをウォッチング

■改憲・大軍拡 石破内閣が発足 「戦争する国づくり」で安倍・岸田政権を超える危険性

10月1日、石破内閣が発足した。「総理になったとたん言うことが変わった」と、「言行不一致」変節だ」と批判を浴びている。

版 NATO) の構築を主導すると主張している。石破氏は総裁選の直前に米保守系シンクタンクハドソン研究所に「日本の外交政策の将来」と題して寄稿した。

自衛隊の行使を無制約で容認している。石破氏は「自民党憲法改正草案」は自民党のホームページから削除されているが、石破氏のホームページには今も全文が掲載されている。

自民党は2日、憲法改正を実現するよう、憲法に「9条の2」を新設して自衛隊を明記することなどを柱とした改憲の論点を整理を全会一致で承認した（東京新聞）。

石破氏は記者団に対し、「日本を守る」の筆頭に「憲法改正」を挙げ、さらに「国会での議論を促進し、総理在任中の発議を実現する」と表明している。石破氏が、戦力不保持を定めた「2項削除」を持論としていることはよく知られている。石破氏が幹事長時代にまとめた2012年の「自民党憲法改正草案」は、「戦争放棄」から「安全保障」にタイトルを変え、9条2項で規定されている戦力の不保持や交戦権の否認は完全に削除されている。その上、自衛隊を「国防軍」とし、集団的

資料 受賞理由全文

ノルウェー・ノーベル委員会は、2024年のノーベル平和賞を日本の組織「日本被団協」に授与することを決定した。「ヒバクシャ」として知られる広島と長崎の原子力爆弾の生存者たちによる草の根運動は、核兵器のない世界の実現に尽力し、核兵器が二度と使われてはならないことを証言を通じて示してきたことに対して平和賞を受ける。

彼ら歴史の証人たちは、それぞれの体験を語り、自らの経験をもとにした教育運動を展開し、核兵器の拡散と使用への差し迫った警告を発することによって、「世界中に幅広い反核機運を生み出し、それを強固なものにすることに

な国々が核兵器の保有を準備しているように見える。現在起きている紛争では、核兵器使用が脅しに使われている。人類史上、今こそ核兵器とは何かに思いをいたすことに価値がある。それは、世界がこれまでに見た中で最も破壊的な兵器だということである。

来年は、米国製の原爆2発が、広島と長崎に住む推定12万人を殺害してから80年を迎える。その後の歳月に、これに匹敵する数の人々がやけどや放射線障害により命を落とす。今日の核兵器は、はるかに強力な破壊力を持つ。何百万人もの人々を殺し、気候に壊滅的な影響を及ぼし得る。核戦争は、我々の文明を破壊

するかもしれない。広島と長崎の地獄の炎を生き延びた人々の連帯は、長く覆い隠され、顧みられずにきた。1956年、地元の被爆者団体は太平洋での核実験の被害者とともに日本原水爆被害者団体協議会を結成した。この名称は、日本語で被団協と略され、日本でも最も大きく、最も影響力のある被爆者団体となった。

アルフレッド・ノーベルのビジョンの核心は、献身的な個人が変化をもたらすことができるという信念である。ノーベル平和賞を日本被団協に贈るにあたってノルウェー・ノーベル委員会は、生存者たちが、肉体的苦痛や辛い記憶にもかかわらず、大きな犠牲を払った経験を生かして平和への希望と関与を育むことを選んだことをたたえたい。

2024年のノーベル平和賞を日本被団協に授与するという決定は、アルフレッド・ノーベルの遺言にしっかりと根ざしている。今年の賞は、委員会が過去に核軍縮と軍備管理の推進者に授与した栄えある平和賞の受賞者リストに加わる。

2024年のノーベル平和賞は、人類のために最大の貢献をした人を選んだというアルフレッド・ノーベルの願いを満たすものである。

2024年10月11日、オスロにて

（朝日新聞訳）

ためめ努力を続けてきた。次第に、核兵器の使用は道徳的に容認できないという強力な国際規範が形成されていった。この規範は「核のタブー」として知られるようになった。広島と長崎の生存者であるヒバクシャの証言は、この大きな文脈において唯一無二のものである。

そうしたなかでノルウェー・ノーベル委員会は、一つの心強い事実を確認したい。それは、80年近くの間、戦争で核兵器は使用されてこなかったということである。日本被団協やその他の被爆者らの並外れた努力は、核のタブーの確立に大きく貢献した。だからこそ、この核兵器使用のタブーがいま、圧力の下にあることを憂慮する。

核保有国は核兵器の近代化と改良を進め、新た

ら、大きな犠牲を払った経験を生かして平和への希望と関与を育むことを選んだことをたたえたい。

日本被団協は、世界に核軍縮の必要性を訴え続けるため、何千もの証言を提供し、決議や世界への訴えを行い、代表団を毎年、国連や様々な平和会議に派遣してきた。

いつの日か、私たちのなかで歴史の証人としての被爆者はいなくなるだろう。しかし、記憶を残すという強い文化と継続的な取り組みで、日本の新しい世代が被爆者の経験とメッセージを継承している。彼らは世界中の人々を刺激し、教育している。それによって彼らは、人類の平和な未来の

唯一の被爆国日本が国是である「非核3原則」の見直しを図り、アジア全域に核戦力強化を呼びかけるなどは断じて許されない。

いま、総選挙の真っ最中。「戦争する国づくり」をさらに加速させる石破・自公政権にストップをかけなければならない。（10月10日執筆）（中）

1945年8月の原爆投下を受け、核兵器の使用がもたらす壊滅的な人道的結果への認識を高めるための世界的な運動が起こり、メンバーたちは

代化と改良を進め、新た

は、人類の平和な未来の

は、人類の平和な未来の

は、人類の平和な未来の

各地の平和運動を報告・交流

新社会党西日本B交流会を神戸で開催

新社会党の西日本ブロック平和運動交流会が9月28、29日の両日、神戸市内で開催され、平和運動の一層の強化が誓い合われた。コロナ禍で4年ぶりの開催となったが50人が参加した。

集会での特別報告として、開催地・神戸から50



西日本各地から50人が参加した新社会党西日本ブロック平和運動交流会＝9月28日、神戸市

年を迎える非核神戸方式の経過と意義について原富夫県本部委員長(神戸市議)から提起され、神戸空襲を記録する会事務局長の小城智子さんからは、太平洋戦争の戦跡を記録する「神戸平和マップ」私たちの街にも戦争があった「つくりにつ

いての報告があった。また、京都からは米軍Xバンドレーダー基地反対闘争の報告が新社会党京都府本部の駒井高之書記長から行われた。

西日本各地からは、列島の軍事要塞化が強引に推し進められていることを反映し、鹿児島・馬毛島の訓練基地建設反対の闘いや、広島・呉の日鉄跡地に建設予定の軍事基地化反対の取り組みが報告されたほか、各県における護憲平和の共同運動の現状などについて報告・交流が行われた。

29日のフィールドワークは、遊覧船で神戸港を一巡。潜水艦を建造・修理している川崎重工や三菱重工などの工場の様子を海上から見学。三菱の工場では、全長80m、建

造費800億円の潜水艦が検査でドック入りしていたが、参加者はその巨大で異様な潜水艦を目の当たりにし、改めて平和運動の強化を誓い合った。

(鍋島)

このドキュメンタリー映画は、沖縄戦で島の少年たちが「護郷隊」の名で組織されたゲリラ兵として訓練され秘密戦を戦わされ、戦後70年以上語られることがなかった「裏の戦争」を暴いている。この映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓をはらんだままの「自衛隊法」や「野

外令「特定秘密保護法」等の危険性へと深く斬り込んでいる。

軍隊は決して住民を守らない。「自衛隊は基地を守り、国を守り、権力者を守るもの」で映画は終わる。

(嶋合)

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

「戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展」

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

秋の「平和を考えるつどい」

映画「沖繩スパイ戦史」を上映 平和憲法を守る高砂市民の会

平和憲法を守る高砂市民の会の秋の催し「平和を考えるつどい」が9月22日、高砂市の福祉セン

場から発せられる人々の声はそれだけに重く見る者の心に染み渡る。

アンケートでは「軍隊は国民を守らない」、「何をすべきか考えさせられた」、「日常の努力で平和を守りたい」、「語りの山里節子さんの生き方に感銘した」、「三上監督に映画作りを続けてもらいたい」などの感想が多く寄せられた。

上映会の最後に、永井俊作上映実行委員会代表が、映画をきっかけに平和への取り組みを強め、

監督の「標的の村」「戦場ぬ止め」「標的の島風かたか」に次ぐ4作目の「沖繩スパイ戦史」の上映が行われた。

このドキュメンタリー映画は、沖縄戦で島の少年たちが「護郷隊」の名で組織されたゲリラ兵として訓練され秘密戦を戦わされ、戦後70年以上語られることがなかった「裏の戦争」を暴いている。この映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓をはらんだままの「自衛隊法」や「野

外令「特定秘密保護法」等の危険性へと深く斬り込んでいる。

軍隊は決して住民を守らない。「自衛隊は基地を守り、国を守り、権力者を守るもの」で映画は終わる。

(嶋合)

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

「戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展」

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

三上智恵監督の映画「戦雲」 明石の上映会に80人

厳しさが増している沖縄のたたかいを励ましたい、沖縄と連帯して「戦争できる国」への「止めた」と、そんな思いを込めて沖縄と戦争をテーマにした映画で全国発信を続けている三上智恵監督の最新作「戦雲(いくさぶむ)」の上映会が10月6日、明石市内で開かれた。

憲法を生かす会明石が事務局を担い、明石地労協人権平和センター、脱原発明石・たこの会、憲法を生かす会・加古川・

稲美・播磨、平和憲法を守る高砂市民の会で行ったもので、80人を越える市民が参加した。

映画は、石垣、宮古、与那国など南西諸島で住民無視、なし崩しで進む軍事要塞化の経過を記録しながら、その土地の伝統文化・自然を大切にしながら暮らす人々の営みや、国の施策に翻弄、蹂躪される心情を、美しい八重山の映像を絡めて表現したもの。直接的な闘争の場面は少ないが、営みの

場から発せられる人々の声はそれだけに重く見る者の心に染み渡る。

アンケートでは「軍隊は国民を守らない」、「何をすべきか考えさせられた」、「日常の努力で平和を守りたい」、「語りの山里節子さんの生き方に感銘した」、「三上監督に映画作りを続けてもらいたい」などの感想が多く寄せられた。

上映会の最後に、永井俊作上映実行委員会代表が、映画をきっかけに平和への取り組みを強め、

監督の「標的の村」「戦場ぬ止め」「標的の島風かたか」に次ぐ4作目の「沖繩スパイ戦史」の上映が行われた。

このドキュメンタリー映画は、沖縄戦で島の少年たちが「護郷隊」の名で組織されたゲリラ兵として訓練され秘密戦を戦わされ、戦後70年以上語られることがなかった「裏の戦争」を暴いている。この映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓をはらんだままの「自衛隊法」や「野

外令「特定秘密保護法」等の危険性へと深く斬り込んでいる。

軍隊は決して住民を守らない。「自衛隊は基地を守り、国を守り、権力者を守るもの」で映画は終わる。

(嶋合)

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

「戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展」

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展

岩佐卓也さん(専修大学経済学部国際経済学教授)は、戦禍の人々を見つめてウクライナ写真展



三上智恵監督の映画を観てあらためて沖縄での自衛隊増強問題などを考えた＝9月22日、高砂市

地域ユニオン あちこちあれこれ

姫路市内にあるプラスチック加工製品製造会社「オペレーターT」さんから6月25日に労働相談があった。

相談の内容は、従業員間のトラブル(窃盗被害)により警察に通報したことを会社にとがめられて書面による注意を受けたことに納得がいかず、また、上司からの度重なるパワハラを改めてほしいと思いい社内通報したが改善されなかったというもので、Tさんはユニオンへ加入すると同時に会社に団体交渉を申し入れた。

7月31日に行った団体交渉には東京本社から役員及び総務部長の出席があり、姫路工場の総務課長と工場長も同席した。交渉でのやり取りの中で、Tさんはパワハラ被害を受けた事実について会社側に認めるよう追及したが、役員、総務部長だけでなく、総務課長、工場長も「そういった事実は、初めて知った」とうそぶく始末で、

認めようとしなかった。姫路工場に勤務する総務課長、工場長がこのような態度をとったことにTさんは呆れ果て、事実認定をめぐって交渉は暗礁に乗り上げるかのように思われた。

この局面で、ユニオンの方から「事実認定をめぐって双方の主張に隔たりが認められるが、少なくともパワハラが疑われる事象が姫路工場で認められたと私たちは認識している。会社として今後の問題としてパワハラ防止法に則ってハラスメントの有無を調査し、必要な措置をとることを求める」と通告した。

会社側はユニオンからの提案を受入れ、今後、パワハラが疑われる事象が生じないよう対処する、との回答が示された。

会社がTさんに対して行った書面による注意に関しては、事実誤認が認められる点についてユニオンから追及したものの会社側は認めず、話し合いは平行線となった。やむを得ず、「組合員Tが書面に記載のある内容を受け入れても不利益となる扱いをしないこと」を確認し、Tさんの了解を得て交渉に区切りをつけることとした。

細川雅弘(姫路ユニオン委員長)

パワハラ案件への「柔軟な」対処も

「組合員Tが書面に記載のある内容を受け入れても不利益となる扱いをしないこと」を確認し、Tさんの了解を得て交渉に区切りをつけることとした。

細川雅弘(姫路ユニオン委員長)

若者のひろば

私はいわゆるロスジェネ世代といわれている年代で、学校卒業時は不景気で就職難の時代でした。先行きの見えない中、コンビニや飲食店で非正規雇用の労働者として働きながら、運よく民間化前に大量採用をした郵政公社に入ることができました。当時の集配の職場は20代の非正規雇用の人が多く活気がありました（今は若い人の数は少なくなりました）。その一方でベテラン正社員が強制配転され、当局による非正規労働者への一方的な雇止めが行われていました。そうした職場実態から、労働者をモノのように扱う経営権の専制が実感として感じ取ることができたと思います。

近年では人手不足が顕著になり、様々な業界で後継者不足が言われていますが、少なくとも30年にわたり、労働力を企業利益のために非正規労働者として格安に浪費的に消費した結果、残ったのは大企業の内部留保だけで、日本経済の低迷、そして社会的な衰退。これこそ日本的な新自由主義の経済政策であり、「階級政治」の結果であったと言えます。

入って5年くらい経って、強制配転で支離に出入り（そしてだんだん

「強支配」という言葉も使われなくなっていました。労働組合の活動を積極的に担うようになりまし。労働運動は「団結」「団体行動」をすることで経済的成果のみならず、さらには階級意識、政治的主体の確立をも目指していくものです。そういう意味においては、労働運動は経済領域における「政治行動」というべきものだと考え

政治的であること

株式に突っ込んだりして経営者マインドを装うよりも、断然リアルなんじゃないかと思えます。しかしながら、新自由主義政策のもと、「自己責任」論は人々の意識に著実に根付いていきました。私はそこに「社会が解体されていく感覚」を感じざるを得ません。これを食い止めるには政治的に闘うことが求められています。しかしながら、トランプ的なものに代表される劣化した政治は、権力への追従・排外主義・弱者への冷笑・政治的デマにあふれ政治的対話を蝕んでいます。

フエニストの有名な言葉に「個人的なことは政治的なこと」というのがありますが、政治というのは日常的なことや、当たり前とされる日常への批判から見出すことができるものではないでしょうか。政治を我々の手にとりもどすためにはそうした「小さな政治」と「議会を扱う政治」をつなげていく発想が必要だと思えます。

私は2025年6月の尼崎市議選に挑戦することを決意しています。前途多難ではありますが、なぜ政治に取り組むのかという原点を忘れず進んでいきます。

(一ノ瀬剛)



兵庫県知事のバハラ行為等について県幹部が告発したが、公益通報制度は遵守されず、権力による犯人捜しの末、百条委員会の直前に告発者が命を絶つというショッキングな結果となってしまった。

思い出すのは2001年当時の牛海面状脳症(BSE)という牛の感染病問題だ。人間が感染した蛋白質を食べると認知症や勝手に体が動く不随意運動を発症する恐れがあり、政府は全頭、検査前の国産牛肉を全て買い上げ、焼却処分する方針を取った。そこに目を付けた「雪印関西西ミートセンター」は安価なオーストラリア肉を国産用の箱に詰め替え、補助金2億円近くを詐取した。判明したのは、詰め替え現場となった「西宮冷蔵倉庫」社長

『内部告発の時代—組織への忠誠か社会正義か』

宮本三子著／花伝社／1800円＋税

水谷洋一さんの告発があったからだ。正義の告発だったが、その後の水谷さんの身に起きた事は会社倒産、借金地獄、家族の自殺未遂等々に繋がるものであり、告発ということの重さを痛感した。その時に買ったのがこの本である。

告発者保護は世界の流れ

この本のサブタイトルは「組織への忠誠か社会正義か」とあるが、「西宮冷蔵倉庫」事件を扱ったものではなく、医療現場や政治の場、企業内で起きる問題を公益のためにどうしていくのかを述べたものである。「内部告発者」という何か重たいワードを「イエローカードを渡す人」として、社会のために行動する人を増やすこと。規制緩和が進む中、企業の不祥事対策として内部の監視・チェック・通報が欠かせないとし、労働者の雇用を守るため

海外の医療過誤にも適用される。法律は、眼をつぶるのではなく、警鐘を鳴らすことを奨励している。

韓国のケースは、目立つ政治家の腐敗から紆余曲折を経て「腐敗防止法」が制定され、内部告発者の刑の減刑や褒章・報償制度があり、参考になるのではと書かれている。

2000年に開かれた科学者や技術者の倫理に向けた世界大会では内部告発に関するテーマの分科会が開かれ、公益のための内部

告発者保護と推進を目的に国際ネットワークによる協力体制が確認されている。

「内部告発」の言葉に重苦しいイメージがあるのは、過去の歴史上、国家や権力者が密告制度を利用して市民同士を監視させた事実があるからだ。日本でも戦中の「隣組制度」など相互監視の歴史があり、暗い影が拭いきれない。

1999年のJCO東海事業所で起きた「臨界事故」では裏メディア作成という会社ぐるみの違法行為が発覚、三菱自動車の検査時の二七連絡書などから、内部告発者保護規定が日本にもあるがあまり知られていなかった。2022年には公益通報者保護法は改正され、行政機関等の通報を行いやすく、通報者がより保護されやすくなったはずだが、ビッグモーターの不正経営、兵庫県庁での告発者探しの現状を見ると、保護法はまだまだ生かされていない。「降格・減給などの不利益扱い、通報者を探すと」には罰則が検討されているようだ。

(加納花枝)

侍タイムスリッパ

140年の時を超えて、のちに滅びゆく運命の「幕末の侍」と、時代の流れに取り残されようとしている「時代劇」へのオマージュがあふれる作品である。幕末の侍がある瞬間、落雷が轟いた。名乗り合い両者が刃を交えた瞬間、落雷が轟いた。やがて「我が身を立てるのはこのみ」と刀を握り締め、新左衛門は磨き上げた剣の腕だけを頼りに「斬られ役」として生きていくため撮影所の門を叩くのであった。

コメディでありながら人間ドラマ、そして手に汗握るチャンバラ活劇でもある。出演者は、失礼ながら誰も名の知られた俳優はいない。というの撮られたもので、しかも今や廃れゆく存在のチャンバラ映画という、どうみても無謀と思えるところからスタートしたのだ。



名たらずの自主映画の口ケ隊が時代劇の名家、東映京都で撮影を敢行する前代未聞の事態。半年に及ぶったもんだの製作期間を経てなんと映画は完成。2023年10月、京都国際映画祭で初披露された際、客席からの大きな笑い声、エンドロールでの自然発生的な万雷の拍手に関係者は胸を撫でおろしたという。

幕末からやってきた美直な武士と現代の映画人が生み出す笑いがあ一方で、手に汗握る真剣勝負の立ち回りシーンは、圧倒的な緊迫感を持って迫ってくる。そういったギャップもこの映画の大きな魅力になっている。

また、この映画の主人公は斬られ役ということ

シネマランド

いま話題沸騰の自主製作映画

監督 川安田淳一 / 2024年 / 日本 / 131分